



有馬富士ハイキング



10月7日(日)「いっばいASO-BOZE」第7弾、有馬富士ハイキングが開催されました。
 当日の朝、急遽参加することにしたため、25分遅れで参加者7名を追いかけました。ろくに地図も確認せずに新三田駅を出発し、他の皆さんとは違う道を辿ったようですが、登山道に入ってから無事に合流できました。

登山歴の長い吉矢さんのアドバイスによれば、上りは楽とのこと。実際、汗は思いっきりかきましたが足腰に大した負担もなく標高374mの頂上に着きました。晴れ間も見え、「大阪はどっちなあ?」等々言いながら眺望を楽しみつつ、気分良く昼食をとりました。

下りには「わんぱく岩」なる難所が存在すること。吉矢隊長の先導で、一步一步確認しながら油断ならない岩場を下りました。「わんぱく」などという呑気なネーミングとはうらはらに、「祖国を追われる難民みたいやなあ…」と思いつつ、手をついたりしゃがんだり、とにかく慎重に進みました。時間にして10分ほどでしたが、険しい登山に挑戦した気分になりました。

アルコール好き(?)のメンバーが多いハイキングでしたが、お疲れ様!の乾杯をするには時間が早すぎ(もとより、新三田駅周辺に飲み処がない…)、寄り道もせずに15時過ぎに帰途につきました。

爽やかな丹波の風に心も体も癒されたハイキングでした。

(記・瀬部 明)



大阪府インテリア設計士協会
 〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
 TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553
 URL <http://jp-interior.or.jp/ois>
 E-mail ois@jp-interior.or.jp
 facebook「大阪府インテリア設計士協会」

発行人：河野 洋二

編集：OIS 編集部

祝

インテリア設計士
 合格おめでとう!
No.106

第58回インテリア設計士合格・登録者

- < 1級 > (敬称略)
 玉井 香里 (社会)
- < 2級 >
 青石 悠嗣 (中央) 小松 秀羽 (修成)
 青木 萌 (大芸) 佐古 祐太 (中央)
 井岡 摩奈 (中央) 嶋村 実里 (尼崎)
 池田日菜乃 (羽衣) 下荒神ゆい (羽衣)
 市岡 真奈 (中央) 富澤祐理子 (修成)
 稲岡 香里 (社会) 富田 祐矢 (中央)
 植村 勇大 (修成) 中井 綾香 (羽衣)
 魚 奈々 (修成) 中村 友香 (羽衣)
 江上由希子 (大芸) 西岡 基樹 (中央)
 大坪 智夏 (羽衣) 西川 諒 (中央)
 大本 誠也 (修成) 西林 果穂 (修成)
 岡田 茉里 (修成) 萩 森 睦 (羽衣)
 織田ヒバリ (羽衣) 林 来 未 (大芸)
 梶原 孝啓 (社会) 東島 優花 (羽衣)
 交 田 悟 (修成) 檀山 尚生 (修成)
 小菅 未裕 (修成) 平松 範之 (中央)
 小林 奈緒 (修成) 前田 龍聖 (中央)
 五宝 睦陽 (修成) 山本 泰弘 (中央)

凡例 社会=社会人
 羽衣=羽衣国際大学
 大芸=大阪芸術大学短期学部
 中央=中央工学校 OSAKA
 修成=修成建設専門学校
 尼崎=県立尼崎工業高等学校

HASHIRIGAKI

葉知利書



証書を受ける合格者(左)と河野会長

証書伝達式報告

第58回インテリア設計士資格検定試験の受験者は、昨年の55人から微増の59人で合格者(登録)は37人(昨年32人)であった。
 合格者に対する証書伝達式が10月26日に心齋橋「桃太郎」で実施され、河野会長の挨拶のあと、設計士証書、資格登録カード、

記念品が手渡された。学園祭シーズンと重なり、合格者の参加は少なかったが、和やかに歓談し親交を深めた。
 今年の試験は西日本豪雨の影響で延期を余儀なくされ、受験者の皆さんにはご心配とご苦労をお掛けした。
 長い協会の歴史の中でも初めてのことであった。

つながりを大切に 会長 河野 洋二

第58回インテリア設計士資格検定試験に合格された方々、おめでとうございます。
 資格は、これからの仕事や人生においていろいろな人とのつながりを約束します。協会の催事にどんどん

参加していただければ、業界や人生の先輩方の話を聞くチャンスが増えます。インターネットの情報とは違い、生きた経験談に溢れています。
 協会のいろいろな出会いの場を活用し、大いに飛躍して下さい。

ビアパーティー報告

夏恒例のビアパーティーを本町にあるオリックスビルの28階「Cross Terrace」で、8月2日に実施しました。
 料理はコリアンフードやタイ料理などバラエティに富んだ内容でしたが、料理よりむしろオフィス街にこんな場所があるんだ、と思わせるリゾート感あふれる開放的な会場に驚きました。
 28階から眺める大阪の街は絶景でした。

(記・事務局)

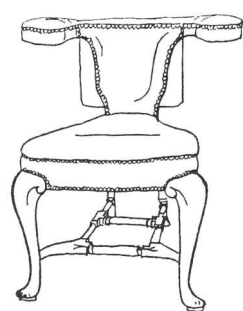


家具よもやま話

No.2 小長谷 光

本題の前に、家具や様式の名称(呼称)についてお話させていただきます。

前回のコック ファイティング チェアは形状からのイメージが呼称となった珍しい例ですが、元来は、リーディングチェアという用途そのままの名称で公共の図書館でも使用され、もう少し簡略なデザインだったようです(イラスト参照)。



コック ファイティング チェア

そもそも名称は後世に付けられたものが多く、通称のまま定着したものもあるわけです。その由来も多岐にわたり、用途、形状、生産地、人名など様々です。とくに人名由来が多く、よく耳にすることもあるチップペンデル、ハッブルホワイト、シェラトン、アダムなどの様式も人名

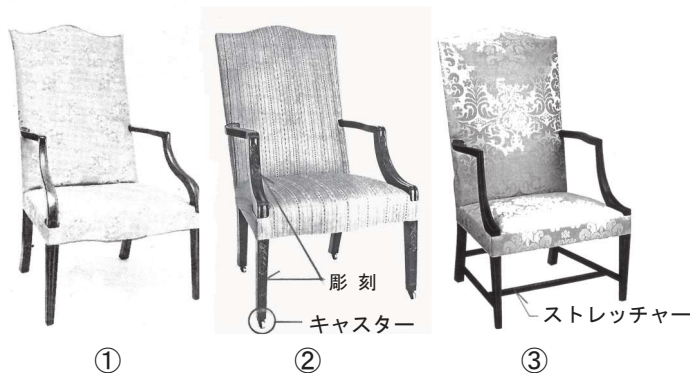
です。
 アメリカのように移民の多い国では出身国や民族、定着した地域まで表すペンシルバニア ダッチ(PENNSYLVANIA DUTCH)のような表現やアーミッシュ、シェーカーなどの教団名を冠することで全体のスタイルをイメージできるものもあります。

ともあれ、〇〇様式の〇〇〇〇のような名称があることで年代やデザインを類推する手助けになっているのではないのでしょうか。

さて、今回取り上げるのは、18世紀後半から19世紀初頭にかけてのマーサ ワシントン チェアと呼ばれる椅子で、アメリカ初代大統領ジョージ ワシントンの妻マーサさんが裁縫や編み物をする際に使っていたとされるものです(写真①)。

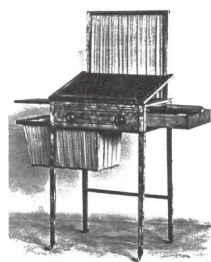
肘束(肘掛け)の支柱と前脚に彫刻が施され、キャスター付きのもの(写真②)、脚部にストレッチャー(トンボ貴)が付いたもの(写真③)、ボックスウッドで象嵌されたものがあり、様式はシェラトンやハッブルホワイトの影響が強いようです。

この椅子と共に使用されたというソーイング(裁縫)テーブル



Martha Washington chair

も椅子と同じように、後世になってマーサ ワシントン ソーイングテーブルと呼ばれるようになったそうです。残念ながら実物の写真が見当らなかったのですが、概ね(写真④)のように、道具や素材を入れる引出しや、制作中の作品の収納ができる布袋(バスケット)が付いた、平面が楕円形のテーブルだったようです。写真のものは長方形で正面にカーテンのようなスクリーンが立っていますが、これは暖炉の熱が直に顔に当たらないためのものです。天板が傾斜しているのはライティングテーブル兼用と思われる。



④

前述の名称という点では第三者である使用者が有名人だったのでついた呼称ですが、デザイン史でよく取り上げられるダンテスカやサボナーラもこの類でしょう。

マーサ ワシントン チェアは現在も複製生産されており、ホテルなどで見かけることもあります。私はこの素直なデザインとハイバックのゆったりしたサイズ感が大好きです。(写真②のタイプで、H=1,035、W=638、D=781、SHは不明)

もしこれがジョージ ワシントンの少年時代に斧で切り倒した桜で作られていれば落語オチになったのですが、写真のものはいずれもマホガニーですので、念のため。

◆原稿募集◆ 「葉知利書」の原稿を募集しています。

- A. お気に入りの観光地(旅行記)
- B. 私の〇〇遺産(お気に入りの建物や場所)
 - A. Bのお題の中から選んで事務局にお送りください。
 - 文字数: 400字~600字 写真: 2~3枚

編集後記

葉知利書の発行がたいへん遅れました。
 12月に実施した、「事遊展」、「篆刻教室」「TALK-PAL」などは次号(3月発行予定)に掲載いたします。
 募集記事の期日は1月末で郵送またはメールでお願いします。

安藤忠雄氏設計「日本橋の家」見学記

10月21日、「日本橋の家」見学会に参加しました。

到着してまず驚いたのは、間口がずいぶん狭いこと。この間口の中に果たしてどのような空間があるのだろうかという期待が膨らみました。その中で私が最も印象に残った2つの空間についてご紹介します。

1つ目は記念写真に写っている3階の中庭です。中庭では天井が大きく抜けていることと、上部の花壇のアクセントが無機質なコンクリートの空間を楽しめる開放的な空間に演出していることです。20人ほど居ても苦しさもなく、飽きることのない空間であると感じました。



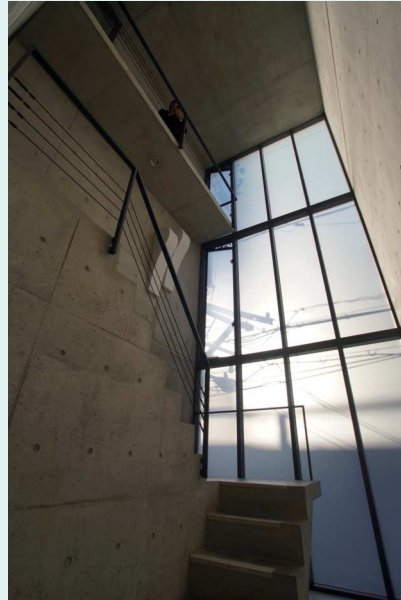
2つ目は西側居間の吹き抜け部分です。道路面の大きな窓から射し込む西陽がコンクリートの壁面の陰影や窓に映る電柱・電線の影をつくり出し、暖かみと美しさを感じました。

見学を終え、もう一度外観を見て改めてこの間口の中にあのような開放的で美しい空間があることに感動しました。

安藤さんに依頼をされた経緯や打ち合わせ過程など、施主である金森さんだからこそできるお話や、実際に建築・インテリアデザインの仕事をされている会員の方の現場レベルでのお話を伺えたことも、学生である私にとって非常に良い勉強となりました。

最後に、この見学会を開催して下さったOISの皆さん、ギャラリー日本橋の家の金森オーナー、そして見学会中に様々なお話を下さった参加者の皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(記・前田 龍聖)



KIS企画 「安野光雅館」と「稲葉本家」

近年にない厳しい寒さでしたが、「3月4日は穏やかな春めいた日差しになります」という天気予報。身も心も弾む思いで集合場所の京都駅八条口へ。広いバスターミナルは観光客で大混雑でしたが、貸切りバスは定刻通り出発し、京都縦貫道を渋滞もなく、道の駅「味美の里」に到着しました。

今や道の駅は進化が目覚ましく「単なる休憩所」ではない、「アミューズメント化」しています。わざわざ道の駅に行くだけのツアーもあるようで、此処も人だらけでした。

1つ目の目的地は「森の中の家 安野光雅館」。京都の料亭「和久傳」が創業の地、京丹後に地方活性化の一端としてプロデュースする自然系複合施設です。2007年から現在も植樹中ですが、見回してもうっそうとした森は無く、今の所だっ広い芝生の広場です。10年後20年後を期待しましょう。

館内は木の造りで絵とよく合う柔らかな雰囲気。設計は安藤忠雄氏で、ところどころスリットのように細長い窓があって、自然光も入るようにされた建物です。

安野さんの故郷、津和野の美術館に比べるとコンパクトな印象です。淡い色調の水彩画で優しい雰囲気が漂う企画展「御所の花」は典雅に描かれた絵に感じ入りました。

2つ目の目的地は、日本海に面した歴史的町並み、久美浜の豪商「稲葉本家」です。

私は「豪商 館めぐり」が好きです。例外なく日本の地方の豪商は沿岸交易によって巨富を得、付近諸藩の金融を独占し結婚による縁結び、つまり一種の政略結婚で権力とつながり、発展していきました。

江戸時代末期、雛人形は江戸を中心に「段飾り」が発展する一方、上方では京の御所を真似た「御殿飾り」が優勢でした。裕福な商家、稲葉家の十畳座敷いっぱいを使った贅を尽くし、家の権勢を誇示する御殿飾りにはびっくりです。

このお雛様は女性が「家」の勢力拡張の道具として当事者があずかり知らぬところで勝手に用意されたものなんだ…、と少し切ない気持ちになりました。

次はお座敷で、お待ちかねのランチタイムです。松花堂会席は、ホタルイカの酢味噌和えやサヨリのお吸い物、蟹のおこわ etc. と日本海早春の旬のお献立。アルコールもOKで現代に生まれてきた幸せを満喫しました。

新建築と歴史建築の両方を1日で体験でき、また考えさせられた「参加してよかった」。春を感じるツアーでした。

(記・吉矢 祥子)



稲葉本家



ならまち散策体験記

3月31日開催

桜も満開、散歩したくなるような暖かい気候の中、古都奈良の旧市街地ならまちを訪れました。

集合場所の行基菩薩噴水前では、いろいろな外国語が飛び交い、まるで外国の地に来たよう。外国人の多さに驚きました。

最初に訪れたのは、からくりおもちゃ館、昔ながらのおもちゃを体験しました。頭を使うおもちゃがたくさんあり、小さな頃からこのようなおもちゃに囲まれていれば、創造力が豊かになるだろうと思います。

次に訪れたのは、国宝・世界文化遺産である元興寺。屋根瓦が行基葺と特徴的で、本堂屋根瓦の一部に飛鳥時代～奈良時代の古瓦が今も使用されており、長い年月を感じると共に、普遍性があり、本来の建築のあるべき姿を感じました。

昼食は、蔵をリノベーションした店舗の部屋で、おつけもの御膳をいただきました。



元興寺

昼からは格子の家。間口が二間ほどで奥行きが長いのですが、中庭があるため、あまり暗くなく、風の通りも良く涼しい。住まい方の工夫があちこちにあり、風情を味わえる施設でした。

次に訪れたのは、国宝の南都十輪院。内部を見学することはできませんでしたが、棟・軒や床が全て低く仏堂というよりは中世の住宅をしのばせる要素が随所に見られました。

最後は春鹿酒蔵で試飲し、ほろ酔い気分が帰途につきました。

久しぶりに、歴史的まちなみを散策し体感しました。歴史的風情を感じる伝統的な町屋には、建築・インテリアに携わる者には、たくさんのヒントがあり、このような心地よい空間を、私達は設計していけないといけないという事を再認識させられました。

(記・西脇 利彦)



十輪院



KIS企画 「瀧原宮」と「海の博物館」

11月25日に開催された、KIS主催のバスツアーにOISから11人が参加しました。

最初に伊勢市にある瀧原宮(たきはらのみや)に向かいました。お伊勢さんは「伊勢神宮」と呼ばれる内宮、外宮の御正宮、14の別宮及び109の摂社・末社・所轄社の合わせて125社から成り立っています。

その中で「別宮」第1位とされる瀧原宮は、天照坐皇大御神が現在の内宮に鎮まる前に、この地に一時お祀りされたという伝承があります。

1959年の伊勢湾台風で外宮・内宮の本宮は多くの「神宮杉」を失いましたが、瀧原宮では被害が少なかったため、本宮より巨木が目立つようになったとのこと。



瀧原宮はパワースポットとしても有名で、癒しを求めて全国から人が訪れています。鳥居をくぐり参道を進むと左右に真っ直ぐ空に伸びる木が立ち並びます。見上げると途中で折れていたり、大きくねじれた木もあり、目に見えない力をひしひしと感じました。

さらに奥に進むと、美しく佇む4社が見えてきます。ここでは、お参りする順番があり、①瀧原宮→②瀧原竝宮→③若宮神社→④長由介神社の順とされています。伊勢神宮のような広さや宮社の数はありませんが、静かでゆっくりとした時間の流れを感じました。

次の見学先は鳥羽市の「海の博物館」。建築家・内藤廣氏が設計し、1992年に竣工した海洋に関する博物館です。建物外装は金属を用いず木質とし、屋根が日本瓦葺きとなっています。周辺の漁村風景を引用した意匠となっていました。

木造船の実物、魚介藻を捕る魚具と漁法、市場での魚屋さんの様子、海洋汚染の現状と環境を守るための対策など、海民とその関わりについて、さまざまな視点から調査・研究され、わかりやすく展示されています。

昼食も海の幸が盛りだくさん、天候にも恵まれた、秋の見学会でした。

(記・南野 江以子)



海の博物館